今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

2011年3月

今月の特選句

猫は恋娘は電話はばからず　有吉堅二
恋猫と愛娘を、同等においたところが可笑しい。
娘さんにしてみれば不満だろうが、本能をモノサシに
すれば、似たり寄ったりということ。

縦縞になつて冬日は獄中へ　小林英昭
獄中の人に冬日の恵みはないかも、という前提のもとにできた、
思いやりの一句と見た。縦縞になるという想像力が抜群。
俳句は想像力。

鼠捕りパトカー任せ浮かれ猫　ひがし愛
パトカーが浮れ猫の下請け、というのがいいねえ。
言い方を変えるなら、パトカーは猫の仲間というか、
そうする事が仕事なんだと納得しました。

千年の恋の行方や炬燵の屁　山下正純
恋の行方は？と読者に推理させている。
「千年の恋も冷めたり炬燵の屁」、
「千年の恋おしまひの炬燵の屁」、「千年の恋ふたありの炬燵の屁」かも。

幕切れは予想しません毛糸編む　三塚不二
予想しませんとあるが、その懸念は十分ある。
そらく彼氏との関係は続かない。
あるいは、編み終えるまでに、幾人か男が替わることも…。

内定を一つも取れず卒業す　松尾軍治
卒業というめでたい季語が、「内定取れず」で裏切られた。
構成上では滑稽だが、粛然とする一句。
「卒業子内定とれたとも見えず」ぐらいに。

今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

二股のばれてバレンタインの日よ　西をさむ
・・・二股どころかどれも義理チョコ

どこまでも上がるとみせて凧揚がる　稲沢進一
・・・墜落といふ第二幕まで

着膨れて厠に行くも一仕事　井野ひろみ
・・・厠についてまた一仕事

寒見舞二伸に金の無心かな　越前春生
・・・振込み詐欺に遭ったと思え

プライバシー覗かれてゐる寒牡丹　笠　政人
・・・恥ずかしさうに紅い顔して

青空を左右に揺らし凧の舞う　北村マコ
・・・青空が凧舞はせることも

合格の第三志望も赤の飯　澤田蔦恵
・・・第四志望は白いご飯か

十円か五円か迷ふ初詣　高橋　都
・・・ご縁の無くば重縁ほどを

初夢のクライマツクス尿意くる　田村米生
・・・夢の結末夜尿布団に

今流に言えば女子会女正月　彦阪義久
・・・わが家は年中女正月

初鏡これは絶対わたしでない　伊藤浩睦
・・・わたしにしては美しすぎる

豆撒けどなぜか栖みつく鬼がゐる　奥脇弘久
・・・しだいに老けて今じゃ鬼婆

駅伝で鍛へし脚で麦を踏む　飯塚ひろし
・・・強く踏みすぎ麦は迷惑

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の滑稽句

丸石の転がるさまで群し鴨	青山桂一
絵解きから始まる免許老いの春	青山桂一
うららかや猫と語りて汽車乗れず	青山桂一
霏霏と降り喜喜と子供は雪合戦	秋月裕子
恋人もそっぽ向きあう咳くしゃみ	秋月裕子
豆まくや金波銀波の潮寄す	秋月裕子
銀ぶらのエルメス素通り春寒し	麻生やよひ
山笑ふ寝起きの良さが取得とか	麻生やよひ
テナーすぐ悲鳴となるや猫の恋	麻生やよひ
未知の地へ一歩踏み出す卒業子	足立淑子
木の芽和このほろ苦き恋の味	足立淑子
人生の答えまだまだリラの花	足立淑子
囀りの風の具合で遠くなり	有冨洋二
飛梅の四方は柵に囲まるる	有冨洋二
天神の堂々ひらく梅まつり	有冨洋二
猫の貌洗ふはバレンタインの日	有吉堅二
大もうけするてふ話し亀鳴けり	有吉堅二
追儺の豆もう歳の数食べられぬ	安藤淑子
冠の失せし古雛気楽そう	安藤淑子
日脚伸び我が身の影も脚長し	安藤淑子
浅草はロック育ちの恋の猫	飯塚ひろし
恋猫と呼ぶには余り肥り過ぎ	飯塚ひろし
雪だるま怒った顔と笑った顔	井口夏子
夜明けの空を残して寒鴉	井口夏子
風邪熱にずしりと響くダンプカー	井口夏子
ついの栖も冷暖房つき雪五尺	池田亮二
小春日や横丁はご隠居だらけなり	池田亮二
冬鳥の知る由もなし立入禁止	石川節子
啓蟄や虫嫌いが眉顰めたり	石川節子
春宵や上げ膳据え膳旅の酒	石川節子
初日の出その裏側はまだ去年	伊藤浩睦
座布団に花を咲かせて早や三日	伊藤浩睦
ひとつぶのひとつぶだけのぶどうかな	稲沢進一
雪降つて横断歩道かも知れぬ	稲沢進一
くしゃみして妻も停年あらまほし	井野ひろみ
初場所や天下御免の煙草盆	宇井偉郎
会津つぼいまだ馴染めぬ薩摩汁	宇井偉郎
二月とて若干の銭残るなし	宇井偉郎
立春に悪態をつく大寒波	宇佐美徹郎
眼が合って犬と散歩や冬日和	宇佐美徹郎
唇にて紅確かむる小正月	宇佐美徹郎
雪解けに裾を濡らしぬ雪女	氏家頼一
尊徳の像に礼して卒業す	氏家頼一
耳の日や耳の大きな仏達	氏家頼一
呼び捨ての顔みなふけし鬼やらひ	越前春生
入選も夢となりたる春の闇	越前春生
節分やどこかで鬼が嗤つてる	奥脇弘久
豆撒けどなぜか栖みつく鬼がゐる	奥脇弘久
豆撒かず恵方巻食ふ果報者	奥脇弘久
来年の兎が招く年の暮	笠　政人
願望はぴんぴんころり独楽まはる	笠　政人
心地よき女医の触診春の風邪	可知豊親
手ならひの半紙をさらふ春北風	可知豊親
箱庭の濡れ縁に置く鉢の梅	可知豊親
春霞　黄砂か噴煙か揉めている	加藤澄子
故郷は鹿の子斑の残雪の中	加藤澄子
少年は　氷雨に濡れて自転車をこぐ	加藤澄子

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

雑炊や言はれなくとも早く寝る	加藤　賢
生命線だけは褒められ冬の星	加藤　賢
着ぶくれの輩に上目使はるる	加藤　賢
おしまひは皆で舟こぐ炉辺話	金澤　健
干されたるシャツ悠々と日向ぼこ	金澤　健
娑婆の身につまされ双六上りけり	金澤　健
寒風に一歩踏み出し二歩もどる	川島智子
涅槃図の蟷螂斧で拝みをり	川島智子
針供養看護師納む注射針	川島智子
バレンタイン・デー妻の友よりチョコ届き	川高郷之助
春眠の窮地脱する厠かな	川高郷之助
霾や主婦の並びぬパチンコ屋	川高郷之助
霧島に降る灰と雨鬼は外	北村マコ
みいちゃんの赤い鼻緒や春隣	北村マコ
胃袋を借りて再生海鼠かな	久我正明
気合い入れ海鼠を噛んでサッカー見る	久我正明
本当は飲み込んでいる海鼠食う	久我正明
草食で装飾系の新成人	工藤泰子
ネイルアート爪を隠さぬ新成人	工藤泰子
七草の根も葉もあるを籠に盛る	工藤泰子
ラジオから東京ブギウギ春の昼	倉方　稔
居候決め込む鬼へ豆を撃つ	倉方　稔
善人の貌して目刺火に炙る	倉方　稔
書き初に書いてしまった誤字の遺書	黒澤正行
恋の猫最後は首に食らえつく	黒澤正行
羨しめり身分を越えし猫の恋	黒澤正行
自身の二十歳を思ひ出せない成人式	黒田忠一
吹雪く中タイガーマスク待つ子かな	黒田忠一
鬼やらひ爺は常々鬼扱ひ	黒田忠一
探梅のふりしてさがす外厠	小林英昭
初放屁しとねですます寝正月	小林英昭
うさぎ年ととのいましたVサイン	齋藤八兵衛
初夢はホールインワン亀に勝つ	齋藤八兵衛
うさぎ鍋肉も野菜も地元産	齋藤八兵衛
雪女でもよし農家嫁不足	酒井鹿洋
親も子も珍名ぞろい名付欄	酒井鹿洋
冬帽子挨拶お互いはげ頭	酒井鹿洋
蛸足の突き出しを指すおでん鍋	桜井宇久夫
牡蠣好きの唇切つてすすりけり	桜井宇久夫
一夜明け節分豆の半値なり	桜井宇久夫
大雪で運動不足解消す	佐藤義子
大雪で隣の家が見えかくれ	佐藤義子
雪かきに頬かぶりして我笑う	佐藤義子
新燃岳の降灰春も雪のごと	佐野萬里子
節分祭きつねの嫁が福を呼ぶ	佐野萬里子
節分会太巻食べて豆撒いて	佐野萬里子
十日ゑびす浜に割鐘演歌鳴る	猿渡　仁
街騒の一つに雪の閑さや	猿渡　仁
股間やゝ弛める吐息おでん酒	猿渡　仁
鼻柱打って見たくて大氷柱	澤田蔦恵
信心も一先ずおいて目刺し食ぶ	澤田蔦恵
孕み鹿吾見る興味なささうに	塩川雄三
寒に入る病院食の味気なし	塩川雄三
無慈悲なる消灯時寒夜星	塩川雄三
家族弾逝く道一人遠花火	柴田真一
寒軋む年輪刻む音の見ゆ	柴田真一
福笑口の開くときうつ戻り	柴田真一
春耕の夜は一盞に力抜く	清水呑舟
老いてなほ妻のマフラー真知子巻	清水呑舟
我に似る木曽の仔馬の胴と脚	清水呑舟
もどかしく冬のすき焼きメガネ脱ぐ	壽命秀次
妻を待つ餌待ち鮟鱇如く待つ	壽命秀次
慄きつ鮟鱇大口たたくかな	壽命秀次

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

百歳の祖母の名はつの福寿草　白井道義
熱燗や上座に座る下戸の父　白井道義
転入のとなり新婚春隣　白井道義

ドから始まってもう二月　鈴木和枝
お日さま冬猫上手に遊ばせて　鈴木和枝
腕組が知らぬ間に上って冬将軍　鈴木和枝

窓側のテーブルクロス雑煮かな　鈴木哲也
日が登り行きつけ喫茶お屠蘇かな　鈴木哲也
書初やしめ切り前で忙しく　鈴木哲也

人生は持ちつ持たれつ猫行火　高田敏男
眠る子に教師一喝鰤起し　高田敏男
般若湯艶本も有り冬安居　高田敏男

牡蛎食へば鐘がなるなり瑞厳寺　高田菲路
煤逃や子にも妻にも見捨てられ　高田菲路
初句会誰も採らざる師匠の句　高田菲路

福笹をツリーのごとく飾りつけ　高橋マキコ
初雪を積もらせて立ち芭蕉像　高橋マキコ
出店の子オマケくれたり残り福　高橋マキコ

大ふぶき身動きできぬ雪女郎　高橋　都
Ｇパンのポッケにつめこむ初メール　高橋　都

二ん月や尻に帆を掛け逃げてゆく　高橋素子
山笑ふその肌深く抉られて　高橋素子
ベランダの黄沙や不法入国の　高橋素子

尾道はでべらといふの干鰈　高松雄三
じやが薯を植ゑる畝土やはらかく　高松雄三
まんさくや破れ古葉と枝々に　高松雄三

やはらかき青麦踏めず風の吹き　田中章子
頭いづこ鶯餅の食べづらき　田中章子
巣箱に書いてあり花子・太郎の名　田中章子

ふるさとの山に拙斎眠りけり　田中　勇
凍鶴や図書館に急き込むところ　田中　勇
日脚伸ぶ己の影に語りかけ　田中　勇

五感今宙さまよいて日向ぼこ　田中早苗
柚子風呂や「生きとるかあ」と夫の声　田中早苗
長閑なる千石船や「寿司食いねえ」　田中早苗

春寒や監視カメラに我の顔　谷むつみ
軍配の欠伸をしたる余寒かな　谷むつみ
出不精に拍車かけたる花粉症　谷むつみ

靴底から節分の豆ひょっこりと　種谷良二
「あかつき」の迷子となるや冬銀河　種谷良二
日向ぼことうの昔に五欲失せ　種谷良二

帰り花焼ぼつくいに火のつかず　田村米生
こんにやくに化けた狸の狸汁　田村米生

老いの春傘寿現在進行形　飛田正勝
初釜や妻に初めて漢弟子　飛田正勝
焼餅に入れ歯取られる初笑ひ　飛田正勝

春炬燵人のうはさは蜜の味　永島董玉
せせらぎの音に怨られ山笑ふ　永島董玉
地虫出づ地獄の門を抉開けて　永島董玉

蟹缶を開けて一品寒明ける　西をさむ
人情の薄い都会の雨水かな　西をさむ

恐る恐る食道とほる雑煮かな　原田　曄
終電に置き去りにせん雪女　原田　曄
ポケットにバレンタインのチョコ一つ　原田　曄

枝垂梅天向く枝は天邪鬼　ひがし愛
一等賞無き運動会の不公平　ひがし愛

吉原の場所を知らない雪女郎　彦阪義久
マフラーの色だけ猪木に合わせたの　彦阪義久

片側を削られ山の苦笑ひ　久松久子
冬たんぽぽ長生きしても一人では　久松久子
屏風絵の虎の尾裏にまはしけり　久松久子

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

冬薔薇幾重にも蕊包みたる	日根野聖子
春時雨かばんを傘にして歩き	日根野聖子
もののけもそわそわとして春の立つ	日根野聖子
出社には及びませんと風邪の身に	広瀬雅幸
霜焼で曲がりし指で奥手なり	広瀬雅幸
大マスクまなこ以外の弛緩する	広瀬雅幸
初鏡金の被せ歯ほくそ笑む	藤岡蒼樹
炭の粉に描くアイシャドー雪だるま	藤岡蒼樹
女正月湯曇り鏡拭きゐたり	藤岡蒼樹
先ず飛ばう心に決めて年新た	藤原セツ子
白梅の散り初む坂の車椅子	藤原セツ子
薄氷踏む明日の吾が身を案じつつ	藤原セツ子
不可もなく可もなく今年の豆を描く	古野セキヱ
年金で買ったおしゃれな冬帽子	古野セキヱ
目も鼻もいらなくなった深海魚	古野セキヱ
よちよちと駆込んでくる年賀客	前川敏夫
見覚えのある顔になり福笑ひ	前川敏夫
悲しげな顔しておどけ猿回し	前川敏夫
豆噛めぬ歯となりて止む追儺かな	前　九疑
鬼やらひ面より怖い面の下	前　九疑
福は内とて豆撒かずポケットへ	前　九疑
おさなごが泣いて待ってる卒業歌	松尾軍治
卒業し一期一会の人となり	松尾軍治
悠久のファラオも目覚む春嵐	丸山紘一
春場所は荒るると言ふも極まれり	丸山紘一
「サクラサク」孫より届く花便り	丸山紘一
凍てる日や知的能力凝固して	三塚不二
当世の犬は炬燵で猫は外	三塚不二
嬉々として落ち葉散らかす声走る	三橋真砂子
御身拭ひ我も受けてるもみぢの手	三橋真砂子
霊峰にふらここを漕ぐお尻むけ	三橋真砂子
プードルの飼い主はどこ梅の園	村上美和
着ぶくれてころころ下る女坂	村上美和
里芋の掘るだけ掘られほっとかれ	村上美和
貰うことばかり気になる水つ洟	百千草
大寒や口より入るもの出でるもの	百千草
雪蛍夜に重さのありにけり	百千草
鼻水と甘酒すすり初大師	森　要
鬼は外隙間あち東風吹くは内	森　要
馬鍬いもまぐはひもなき爺炬燵	森　要
出初式マツチポンプをして見せる	守屋八郎
死に化粧施す如き初鏡	守屋八郎
豆撒の妻は本気で夫に投げ	守屋八郎
余りものなどとは言へぬ寒さかな	八木　健
淡雪に慌てる首都のハイヒール	八木　健
句会中大退屈のサングラス	八木　健
尻の穴一夜の雪に平しけり	柳　紅生
新雪のお菓子の国に来たやうな	柳　紅生
減量の叶ひ連日雪を掻く	柳　紅生
排泄も出来ぬショックや寒の事故	柳澤京子
バレンタインチョコ散乱のリュックかな	柳澤京子
電線に夫の餌待つ寒雀	柳澤京子
探梅のばったりであうアライグマ	山内重昭
クリオネは命ひらひら寒の水	山内重昭
厳寒やとがめてウオノメに泪	山内重昭
山眠る覗いてみたき山の夢	山下正純
白き龍吐きて長さを競ふかな	山下正純
先生も鶯餅の粉つけて	山本あかね
ぽつてりと鶯餅の腹辺り	山本あかね
水温む書棚に旧りし立志伝	山本あかね
勇姿かな今日を限りのとら河豚の	山本けい子
左キツクゴールを決めて寒明ける	山本けい子

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

豪農の屋敷半分竹の秋	山本　賜
立春やごしごし洗ふ花の鉢	山本　賜
ここでおしまひ山藤を探す旅	山本　賜
二日早や決心ゆらぐ日記かな	横山喜三郎
真っ先にパトカーの来て成人祭	横山喜三郎
皮算用大きくはづれバレンタインデー	横山喜三郎
狛犬のふぐりも縮む寒波来	渡辺さだを
己が歯でかめる倖せ林檎むく	渡辺さだを
大寒やごくごく水を呑むばかり	渡辺さだを

掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。